

U D L M

11

vol.299

November 30th

都市の
遊歩者

p.2-3 散歩企画
p.4 30年前のビジョンをたどる
- 晴海アイランド計画と
HARUMI FLAG -

散歩企画「変わる私、変わる都市」

コロナ禍によって外出する機会が減少してしまった今日この頃。講義や研究室会議、ミーティングに至るまで Zoom がすっかり根付いてしまい、筆者はオンライン疲れが深刻化しつつある。しかし、コロナが一段落した今(執筆段階ではぶり返しつつあるが……)人文系の学生の本分が「本を読み漁る」ことであれば、都市工の学生の本分は「街を歩き倒す」ことなのではないだろうか。街へ出よう。

そのような経緯もあり、11月号では、散歩企画を設定した。偽愛的には、

都市更新の進む23区東側エリアに着目し、ジェントリフィケーションの進む南千住、学部3年次の街歩き演習でめぐった京島と月島をデザ研学生が歩き、思い思いに感想を述べあった。とりわけ後者の街歩きは研究室生活で培った知見や経験をもとに、演習のときはとすこし異なる顔を見せる街を、異なる視座から見つめ直す機会となった。

以下、各人の印象に残った風景とともに、その感慨を紹介してもらった。(地図：地理院地図より)

①南千住～変わりつつあるドヤ街

◎概要

近隣に日光街道の千住宿が位置し、かつては水運と貨物の結節点としての役割を果たしていた。江戸時代には小塚原刑場が設置され、処刑された人々を供養するため創建された回向院前の山谷通りは「コツ通り」とも呼ばれている。

駅南側の山谷地区は横浜寿町・大阪釜ヶ崎と並ぶ**日本三大ドヤ街の一つ**であり、労働者向けの簡易宿泊所が立ち並び、近年では再開発によって駅周辺にタワーマンションが立ち並んでいる。また、宿泊費の安さや交通の便の良さからインバウンドが多く宿泊するエリアとなっており、**街に滞留する人々が多様化**している。



確かに神社の鳥居って視認性抜群だからこういう使い方が生まれてくるよなど。周りを囲う柵が明らかに洋風なのは何かの名残か。聖俗和洋が入り乱れている。(松坂)



どうやら宿泊施設であったようだが、現在も営業しているのかどうかまでは読み取れなかった。やや緑の少ないまちにパッと芽を吹く溢れ出しがまばゆい。(藤本)



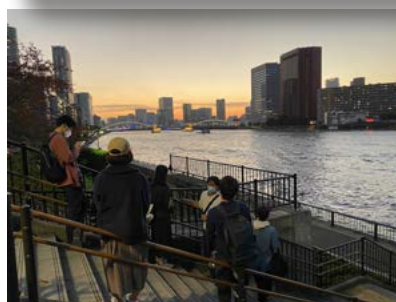
Some graffiti made by the residents could be found in the neighborhood, which is less common in other residential areas in Tokyo. Although graffiti issues sometimes seem to be a problem to a city, this kind of life trace, like the graffiti in this park, could always remind me of the scene of local life. (陳)



団地の1階にバス営業所が設置されている都営南千住二丁目アパート。1Fに都営三田線の車両基地が設けられ、人工地盤野の上に建つ西台アパートを彷彿とさせる。**合理性が生み出した東京の景観を実感**せられる。(藤本)

◎散歩の風景

企画には学生8人と永野真義先生が参加。ソーシャルディスタンスに配慮して行われた。



②京島～防災性の向上が実現しつつある木密エリア

◎概要

曳舟駅・京成曳舟駅東側に広がるエリア。戦災を免れ、**木造密集市街地と迷路状の街路が残存**する。近年は市街地再開発事業により老朽化した建物の不燃化、生活道路の整備、ポケットパークの設置が進行しつつあり、都市更新がなされつつある。また、木造家屋をリノベーションしたカフェ、画廊といった新たなテナントの存在も目立ちつつある。



既視感があるなと思ったこの町並み。昨年スタジオの対象地であった本郷通り沿道と同じく、**拡幅待ちで道路側の建物階数が制限**されているようです。(宗野)



フェンスを越えてあふれ出す植木鉢は誰が置いたのか。かつては何が植えられていたのか。**あふれ出しの始まりの姿**がいつも気になってしまいます。(應武)



自動車侵入を防ぐためでしょうか。**目に見えない結界**のようで、訪問者の私たちは足を踏み入れにくい。小さな目印なのに、あちら側が居住者だけの特別な場所に見えます。(宗野)



2年半ぶりに訪れた京島。建て替えられた家屋、新しくできた空地・広場・通り抜けを発見し、趣を残しながらも、少しずつだけ**確かに更新**が起きていることを体感。この**スピード感**がいいなあ。(河崎)



北十間川沿いで発見。最近間借り営業を始めたカフェの看板らしい。この**立ち飲みスタンドのように見えるドラム缶**は実は**防火用水のドラム缶**と判明。ここでスカイツリーと川を眺めながらコーヒーで一服入れたい。(河崎)



Urban renewal and transformation always expands in an unprecedented scale and speed in China. So the adaptive urban renewal rate in this area is so fresh to me. And I felt it was quite great because **it could give enough time for people thinking about the past or the future.** (陳)

③月島～路地と屹立するタワマンと

◎概要

かつては長屋密集地であったが、近年ではタワーマンションの建設が推し進められ、従来の**路地空間が変容**を遂げつつある。「西仲通り商店街」のもんじゃ店のほとんどはもんじゃブームにあやかっ**て鞍変えした**もの。



向かって左側、タワーマンション建設に伴って商店の連続性が完全に途絶えてしまっている。もはや**形骸化**してしまっている**アーケード**がどこかむなし。(藤本)



もんじゃストリートを挟んで建つ**タワーマンションと路地のコントラスト**が強烈。もんじゃ焼きのようにそれぞれの住民が混ざり合うことはあるのだろうか。(松坂)

4面へつづく!

30 年前のビジョンをたどる - 晴海アイランド計画 と HARUMI FLAG -

まちあるき企画終了後、月島から晴海へ足を伸ばして、東京オリンピックの開催延期により注目が集まる晴海選手村の現在を見に行った。あいにく再開発エリアの内部は立ち入り禁止であり、外縁から見た、整備されて間もない環状 2 号線と、人気の無い巨大な居住棟のボリュームが印象に残った。

HARUMI FLAG とはどのような思想のもと計画されたのか。気になって資料をたどると約 30 年前に地権者によって打ち出された「晴海アイランド計画」にたどり着いた。ここでは、手に入った資料をもとに、晴海アイランド計画で描かれたビジョンと、HARUMI FLAG の計画を比較してみる。



新・晴海アイランド計画 (1990 年) 出典: 新建築社 (2017) 『新建築第 92 巻 10 号 2017 年 9 月別冊 都市のアクティビティ 日建設計のプロセスメイキング』



HARUMI FLAG 敷地配置完成予想 CG

出典: HARUMI FLAG 公式サイト <https://www.31sumai.com/mfr/X1604/#!/article/8>

1990 年に策定された「新・晴海アイランド計画」において、晴海五丁目西地区は「INTERNATIONAL SEAPORT」と位置付けられている。配置図を見ると、左下(南端)の「晴海旅客ターミナル」からまち側への連続性が重視され、客船から上陸した人を迎え入れる四分円型の広場が描かれていることがわかる。また、晴海を横断(南西～北東)するメインストリートから両翼を広げた形態のシンボリックな建物が描かれ、左(南西)側が最も高い、階層構造の計画になっているように捉えられる。他方 HARUMI FLAG の配

- 1984 地権者から成るまちづくり組織「晴海をよくする会」発足
- 1986 晴海をよくする会「晴海アイランド計画の提案」発表
- 1990 晴海をよくする会「新・晴海アイランド計画」策定
- 2001 晴海アイランドトリトンスクエア竣工
晴海をよくする会「晴海アイランド計画 2001」策定
- 2013 2020 オリパラ開催地が東京に決定
- 2014 東京都「選手村大会終了後における住宅棟のモデルプラン」公表
- 2016 東京都「東京 2020 大会後の選手村におけるまちづくりの整備計画」公表
晴海 5 丁目西地区第一種市街地再開発事業 認可
都市基盤整備に着手
- 2017 建築工事に着手

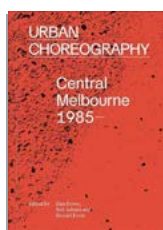
参考: 晴海をよくする会 公式サイト <http://harumi-island.com/chronology/>
再開発コーディネーター協会 (2001) 『再開発コーディネーター 2001 No.93』
東京都都市整備局 (2019) 『選手村の整備 (東京 2020 大会後のまちづくり)』

置図において、旅客ターミナルとの接続はあまり重視されていないように見える。晴海を横断するメインストリートと埠頭公園との接続部はシンボリックなデザインがされているが、海から陸ではなく陸から海の方、つまりメインストリートから埠頭公園にアクセスする際の印象的な視線の抜けを重視しているように見える。

晴海アイランド計画は海から、HARUMI FLAG は陸から人を迎え入れる計画になっているというところに、両者の決定的な違いを見た。

COLUMN

BOOK OF THE MONTH



Urban
Choreography
- Central Melbourne 1985 -
K. Dovey 他
Melbourne University Press
2018 年

推薦者
M2 山口

訪れた旅先で施策展開をまとめた本を得て帰るのも思い出。今でこそ路地が賑わいカフェ文化が花咲くメルボルンで、荒廃した CBD からいかにして復活したかが描かれる。全く新しいビジョンを如何に実現するかというプランナーの醍醐味が感じられる一冊。

WEB MAGAZINE

続きは都市デザイン研究室 HP で！
<https://ud.y.u-tokyo.ac.jp/a/blog/>



テガマウィークエンド vol.3 開催！

手賀沼 PJ では地元市民と連携して、4 週末にかけてヌマベを楽しむ「ヌマベクラブ」を開催しました。陸と沼の間で繰り広げられる、10 の主催メンバーによる多彩なアクティビティは格別でした。(M1 鈴木)



浦安 PJ グランドフィナーレ

浦安 PJ は 2020 年に一度、その活動に幕を下ろします。その締めくくりとして冊子を発行し、浦安市民活動フェスティバルでのイベント「デジタル時代のまちづくり」に参加しました。(M2 應武)

LOOKING BACK AT NOVEMBER

- 1,7,8th ヌマベクラブ
- 7-8th 菜園講習会
- 28th 浦安市民活動 Festival
- 29th- 宇治 PJ 現地調査 & 奈良女子大合同 WS

POSTSCRIPT

戦前の雰囲気を残すまち・京島を最初に訪れたのは 8 年前。未踏のまちをふらっと歩くことが好きな少年だったが、当時撮った写真を一枚も残していないことが悔やまれる。都市研究者、計画家である以前に一遊歩者、記録者であり続けたい。(M1 藤本)